

▶カリキュラム

系統	1年次		2年次		3年次			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教養系教育	人と文化I：異文化1～5		人と文化I：異文化1～5		英語教育 実用的な薬学英語の修得 「読む・書く・聞く・話す」をバランスよく身につけられるように、「薬学英語入門」を1～3年次にかけて必修科目としています。1～2年次では「読む・書く」に特化した授業(RW)と、「聞く・話す」に特化した授業(LS)を通じて、医療現場で薬剤師に必要とされる英語力を養成します。また希望者は3年次にTOEIC公開試験を受験することができます。			
		人と文化II：日本の文化1～5		人と文化II：日本の文化1～5				
	人と文化III：自然科学1～5		人と文化III：自然科学1～5					
		人と文化IV：社会のしくみ1～5		人と文化IV：社会のしくみ1～5				
	アカデミック・スキルズ入門	人と文化V：人の行動と心理	人と文化VI：倫理					
	保健体育学	スポーツ医科学	教養系教育 物理・化学・生物の基礎を学ぶ 物理学・化学・生物学・数学・人文系科目など、6年間にわたる薬学の専門的学習に向けた基礎的知識を修得します。また、受け身ではなく主体的に学ぶ姿勢を身につけ、他者の多様な意見に触れる機会も提供します。					
	基礎物理学I(演習合)	基礎物理学II(演習合)						
	基礎統計学	線形代数(演習合)						
	微積分学(演習合)	基礎化学II(演習合)						
	基礎化学I(演習合)	基礎生物学II						
基礎生物学I	生物学実習							
情報科学実習	病態・治療学実習I							
英語教育	英語I RW-1	英語I RW-2			英語II RW-1	英語II RW-2	英語III-1	英語III-2
	英語I LS-1	英語I LS-2			英語II LS-1	英語II LS-2		
化学系薬学教育	有機化学概説	基礎有機化学I			基礎有機化学II(演習合)	無機化学	有機化学II	生命の化学II
			有機化学実習I	有機化学I(演習合)	生命の化学I	天然物化学		
物理系薬学教育		分析化学実習	物理化学I	物理化学II	機器分析	臨床分析		
			分析化学	物理化学III				
			放射化学					
生物系薬学教育	解剖学	生化学I	生化学II	微生物学	免疫学	感染制御学		
				分子細胞生物学	分子生物学			
衛生系薬学教育				生化学実習	微生物免疫実習			
					食品衛生学	環境科学		
						毒性学		
薬理系薬学教育			生体と薬物	臨床薬理	疾患と治療I	疾患と治療II		
			生理学		薬理学実習			
薬剤系薬学教育					薬物の体内動態	薬物動態解析		
					物理薬剤学	製剤学		
臨床系薬学教育			医療倫理学	臨床薬学I	社会と薬局	臨床統計学		
					医薬品の安全性	臨床薬学II		
	総合薬学教育 総合力のある医療人を目指す 薬学系人材育成全般を担う科目から構成されています。生命・医療倫理、法規制の修得のほか、早期体験学習やインターンシップを通じて、薬学生に卒業後の将来像を感じてもらいます。上級学年では薬学・医療の進歩と改善を遂行できる能力を培い、6年次後期に開講される「最終総合演習」によって、6年間身につけた学力の確認を行います。		薬理系薬学教育 クスリの効き目は… 生体が恒常性を維持する機構を個体レベルで理解するために、各組織の機能調節機構について基本的知識を修得します。医薬品の作用する過程を理解し、適切な薬物治療が行えるよう各疾患の病態生理、治療薬選択、使用上の注意に関する基本的知識と技能を修得します。					
総合薬学教育	ヒューマニズムについて学ぶ 生と死/医療の担い手/信頼関係			薬系公定書概論				
	早期体験学習							
	薬学への招待	薬学リテラシー						

現在、新カリキュラムの編成に向け、準備を進めています(2024年度実施予定)。

4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
<p>化学系薬学教育 医薬品の構造式を理解する</p> <p>多くの医薬品は化学物質です。化学物質の基本的性質を理解するための基本的知識と、実習でその扱いに関する基本的技能を身につけます。タンパク質や糖、脂質など生体内分子も化学物質です。そのほか自然界が生み出す薬物(天然物)についても学びます。</p>		<p>物理系薬学教育 原子・分子から熱力学、反応速度まで</p> <p>生体内には様々な物質が存在し、それらが反応することで生命活動が営まれています。医薬品も生体内の物質と相互作用をし、その効果を発揮します。これらのことを理解するため、原子・分子の性質や放射化学、化学熱力学、溶液化学、反応速度論といった事項を修得し、応用する技能を身につけます。また、医薬品の開発、生産や品質保証・管理に不可欠な分析法も学びます。</p>			
有機化学特論				<p>生物系薬学教育 ヒトや微生物の構造と相互作用</p> <p>ヒト(生命体)や微生物(環境因子)の構造を分子、細胞、個体レベルで多角的に学びます。また生体内における分子の相互作用や細胞間の相互機構を理解するとともに、微生物についても宿主との関連を分子、細胞、個体レベルで見えていきます。</p>	
医薬品化学					
		<p>衛生系薬学教育 健康と環境からアプローチ</p> <p>履修科目は「健康」と「環境」の二つに大別されます。健康分野では公衆衛生学、疫学、栄養学、食品衛生学など、環境分野では環境科学、毒理学などを学ぶほか、食品や環境中の物質を測定する試験法といった技能も修得します。環境化学物質や食品添加物、保健機能食品なども化学物質として捉え、生体との関わりを分子レベル・化学反応レベルで理解します。</p>			
公衆衛生学				<p>臨床系薬学教育 臨床現場での活躍を目標に</p> <p>薬剤師として求められる基本的な資質を身につけることを目標に、早期(2年次)から卒業まで継続して修得していきます。病院・薬局など臨床現場で活躍できるよう、2~4年次に学ぶ臨床系講義と、5年次に学外の病院・薬局で5か月間かけて行う実習の2部構成となっています。さらに6年次では薬学臨床アドバンスト科目を学びます。</p>	
疾患と治療Ⅲ		<p>薬剤系薬学教育 製剤化の意義と方法を学ぶ</p> <p>医薬品の適正使用に向けて、製剤化と薬物体内動態に関する知識・技能のほか、錠剤や注射剤など製剤化の方法と意義を学び、製剤の特性を理解します。薬物体内動態は、薬物が体内でどのように吸収され、分布し、代謝・排泄されるのかを理解し、患者の病態や個人差、薬物相互作用などを考慮した投与計画の作成などを修得します。</p>			
疾患と治療Ⅳ					
病態・治療実習					
個別化医療					
薬物送達法					
製剤学実習					
医薬品情報学	漢方治療学		薬物治療特論Ⅰ	患者情報	
臨床実習事前学習Ⅰ	分子病理学		薬物治療特論Ⅱ	予防医学	
	臨床実習事前学習Ⅱ		医薬開発特論Ⅰ	臨床試験	
	薬物治療評価学		医薬開発特論Ⅱ	アドバンスト実務実習	
			病院・薬局実習	分子標的医薬品	
				医薬品相互作用	
				在宅医療	
				専門薬剤師	
				新興感染症	
				実用薬学英語	
薬事関係法規	医薬品開発と生産		インターンシップ	基礎薬学特論・演習	
			基礎薬学総合演習	臨床薬学特論・演習	
				アドバンスト薬学研究	
		薬学研究1		薬学研究3	
		薬学研究2		最終総合演習	